

巻頭言 / そこが知りたい

セカイカメラで / すでに不動産3サイトが拡張現実(AR)を公開!

電車の中や街のあちこちでよく見かけるようになったスマートフォンからの家探しが急速に拡大する見通しになってきた。このスマートフォンからの家探しでは、拡張現実(AR)と呼ばれるこれまでになかった驚愕の世界が実現している。

この拡張現実(AR)がもたらそうとしている今後の不動産業革命については、本誌5~6ページの「展望」などをご覧頂くことにしてここでは詳細は述べないが、拡張現実(AR)のためにプラットフォーム(Webサイト)と閲覧ができるアプリを提供しているのが日本のベンチャーで、世界的な認知(現在は英語圏中心)が始まっているセカイカメラ・頓智ドット(株)という会社。このベンチャーがまた凄いのである。

<http://nokias60.seesaa.net/article/128777671.html>

まずは、上記のアドレスから『やったね!セカイカメラ』の動画をご覧ください。

これは、2008年9月にクウジツ(株)頓智(当時)の井口CEOがベンチャーの登竜門となる米国の『TC50』に乗り込んでいった時のMovieだが、会場でこれほどの絶賛を浴びたプレゼンテーションがこれまでにあっただろうか。

「Look up! not down」——これは、「パソコンやケータイの小さなスクリーンから、時には目の前のセカイに視線を上げよう!」という、頓智ドットのメッセージであるが、米国に乗り込んでいった時の熱狂的なプレゼンテーションから1年後にスタートアップの存在意義が問われる中でのアンサーソングで彼は、次のように述べている。 <http://bit.ly/plxUj>

「世界を変える意志など有るのか?——と問われるなんてナンセンスだ。そんな疑念をぶち破るスピリットがなくて、ベンチャービジネスなど始められる筈はないのです!」

ところで、頓智ドット(株)(現社名)というのは……こんな会社!

「セカイカメラは、現実空間にエアタグと呼ばれるデジタルなポストイットを貼付けることでコミュニケーションするソーシャルARアプリケーションです。

拡張現実テクノロジーによって、現実空間はクリック可能な世界に変換されます。スマートフォンを「かざす」だけで、「その場所」「その時」に対応した情報をインターネットから取得し、カメラが映し出す現実空間にオーバーレイして表示。

また、ユーザー自身も自ら情報を投稿できます。セカイカメラは、現実空間とインターネットをつなぐ、新しいインタフェースを提供します」。(同社のWelcome to a Clickable World! より)

そのセカイカメラが、2010年の春にブレイクしたのである。

セカイカメラのPUBLISHERS(情報公開のための利用者)は、すでに不動産3サイトをはじとして、3月15日現在で、以下のようになっている。

HOME'S(不動産情報)日本 / スマイティ(不動産情報)日本 / SUUMO(不動産情報)日本 / 楽天トラベル(旅行情報)日本 / みんなの経済新聞ネットワーク(地域ニュース)日本 / マツモトキヨシ(ドラッグストア店舗情報)日本 / ぐるなび(レストラン情報)日本 / HotPepper(レストラン情報)日本 / カーセンサー(中古車店舗情報)日本

3月末から4月には、以下の各社が続く。

じゃらん(旅行情報、3月下旬開始予定)日本 / 東急ハンズ(商品情報、4月開始予定)日本